

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

防人衛第21716号  
令和5年10月18日  
開設者名 防衛大臣 木原 稔

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5番1号
氏名	防衛大臣 木原 稔

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

防衛医科大学校病院
-----------

3 所在の場所

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3丁目2番地
電話 (04)2995-1511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
アレルギー疾患内科またはアレルギー科及びリウマチ科の診療は、膠原病内科において提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	膠原病内科	2	抗加齢血管内科	3	肝・胆・膵外科	4	形成外科	5	腫瘍化学療法部
6	緩和ケア室	7	リハビリテーション部	8	総合臨床部	9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
36	9	0	0	620	665	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	143	3.1	146.1
歯科医師	6	0	6
薬剤師	19	1.6	20.6
保健師	0	0	0
助産師	10	0.8	10.8
看護師	427	26.9	453.9
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	3	0	3

職種	員数
看護補助者	35
理学療法士	3
作業療法士	2
視能訓練士	4
義肢装具士	0
臨床工学士	11
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	26

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	37
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	2
その他の技術員	13
事務職員	82
その他の職員	30

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	34	眼科専門医	7
外科専門医	26	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	8	放射線科専門医	15
小児科専門医	25	脳神経外科専門医	22
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	13	救急科専門医	8
		合計	214

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 塩谷 彰浩 ) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	288.1 人	3.3 人	291.4 人
1日当たり平均外来患者数	1073.7 人	40.6 人	1114.3 人
1日当たり平均調剤数	648		剤
必要医師数	69		人
必要歯科医師数	2		人
必要薬剤師数	9		人
必要(准)看護師数	184		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	11 床	心電計	有
集中治療室	203.2 ㎡	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	52.3	㎡	病床数	4 床
	[移動式の場合]	台数	10	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	37.8			㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	252 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置		
細菌検査室	270 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO <sub>2</sub> 培養器		
病理検査室	252 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置		
病理解剖室	164 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽		
研究室	18,661 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム		
講義室	5,435 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	1,200 人
図書室	3,023 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数	約19万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	110.1	%	逆紹介率	58.8	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,417 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,204 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,808 人		
	D: 初診の患者の数		15,633 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
斉藤 祐次	所沢市薬剤師会 顧問	○	薬剤師としての豊富な経験から、医療に関する意見を述べてもらうため	無	1
大館 千歳	国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護部長		看護師としての豊富な経験から、医療に関する意見を述べてもらうため	無	1
島戸 圭輔	二番町法律事務所(弁護士)		弁護士としての経験から法律に基づいた意見を述べてもらうため	無	1
奈良 信和	自治体職員		医療を受ける者としての意見を述べてもらうため	無	2
根本 孝一	永仁会入間ハート病院		医師としての豊富な経験から、医療に関する意見を述べてもらうため	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
防衛医科大学校病院ホームページ	





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	大腸癌術後ドレーン排液中および血中炎症性サイトカイン濃度による再発予測	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 サイトカイン濃度は術中に腹腔内に散布された遊離癌細胞や腫瘍剥離面付近に遺残した癌細胞の再活性化や浸潤増殖に影響する可能性がある。今回の検討ではドレーン排液および血中の炎症性サイトカイン濃度の測定による再発予防法を開発する。			
医療技術名	大腸癌生検組織を利用した癌悪性度評価及び予後予測	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 内視鏡下生検組織により癌の悪性度予測が可能となり、手術前の治療方針決定に利用できる等、臨床的意義は大きい。			
医療技術名	滲出型加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子療法における前房水中サイトカイン濃度モニタリングの有用性に関する検討	取扱患者数	85
当該医療技術の概要 滲出型AMDの寛解及び増悪時において関与する炎症性サイトカイン濃度をモニタリングすることで、BCVA及びCMTに加えた滲出型AMDの病態を予見しうる新たな治療指標となる前房水中サイトカイン濃度モニタリングを開発する。			
医療技術名	血中Mesothelinに着目した新規腫瘍マーカーの開発	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 血中Mesothelin測定が切除標本のMesothelin発現と一致するか、他の腫瘍マーカー及び各種画像検査と比較して腫瘍の再発モニタリングに有用であるかを検討する。			
医療技術名	抗血管内皮増殖因子療法中における滲出型加齢黄斑変性眼の視力予後および黄斑萎縮の発症を予測する新規バイオマーカーの開発	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 滲出型AMD眼から抗VEGF療法前後において、前房水を採取して前房水中に含まれる炎症性サイトカイン濃度をモニタリングすることで抗VEGF療法中の滲出型AMD眼の視力予後及び悪化及び中心視野障害に関わる黄斑萎縮の発症を予測しうる新規バイオマーカーを開発する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	230



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	61	アジソン病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	12	62	サルコイドーシス	80
3	脊髄性筋萎縮症	3	63	特発性間質性肺炎	17
4	進行性核上性麻痺	10	64	肺動脈性肺高血圧症	26
5	パーキンソン病	131	65	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9
6	大脳皮質基底核変性症	5	66	網膜色素変性症	15
7	シャルコー・マリー・トウス病	2	67	パッド・キアリ症候群	1
8	重症筋無力症	94	68	特発性門脈圧亢進症	1
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	77	69	原発性胆汁性胆管炎	22
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	70	原発性硬化性胆管炎	2
11	封入体筋炎	2	71	自己免疫性肝炎	38
12	多系統萎縮症	6	72	クローン病	166
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	27	73	潰瘍性大腸炎	391
14	副腎白質ジストロフィー	1	74	好酸球性消化管疾患	4
15	ミトコンドリア病	9	75	若年性特発性関節炎	6
16	もやもや病	12	76	先天性ミオパチー	2
17	プリオン病	2	77	筋ジストロフィー	8
18	特発性基底核石灰化症	1	78	脊髄空洞症	1
19	全身性アミロイドーシス	26	79	前頭側頭葉変性症	1
20	神経線維腫症	4	80	痙攣重積型(二相性)急性脳症	5
21	天疱瘡	26	81	神経細胞移動異常症	1
22	表皮水疱症	2	82	ドラベ症候群	3
23	膿疱性乾癬(汎発型)	4	83	レノックス・ガストー症候群	1
24	中毒性表皮壊死症	1	84	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	2
25	高安動脈炎	14	85	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
26	巨細胞性動脈炎	7	86	結節性硬化症	2
27	結節性多発動脈炎	6	87	家族性良性慢性天疱瘡	2
28	顕微鏡的多発血管炎	34	88	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	31
29	多発血管炎性肉芽腫症	18	89	特発性後天性全身性無汗症	11
30	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	16	90	マルファン症候群	2
31	悪性関節リウマチ	2	91	ウィルソン病	1
32	パージャー病	2	92	プラダー・ウィリ症候群	1
33	全身性エリテマトーデス	130	93	ヌーナン症候群	1
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	76	94	三尖弁閉鎖症	1
35	全身性強皮症	54	95	ファロー四徴症	3
36	混合性結合組織病	19	96	両大血管右室起始症	2
37	シェーグレン症候群	75	97	急速進行性糸球体腎炎	37
38	成人スチル病	12	98	一次性ネフローゼ症候群	124
39	再発性多発軟骨炎	3	99	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	4
40	ベーチェット病	54	100	オスラー病	6
41	特発性拡張型心筋症	32	101	閉塞性細気管支炎	2
42	肥大型心筋症	16	102	副甲状腺機能低下症	6
43	再生不良性貧血	26	103	尿素サイクル異常症	3
44	自己免疫性溶血性貧血	5	104	ポルフィリン症	1
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	105	シトステロール血症	1
46	特発性血小板減少性紫斑病	39	106	強直性脊椎炎	3
47	血栓性血小板減少性紫斑病	4	107	後天性赤芽球癆	7
48	原発性免疫不全症候群	20	108	ファンコニ貧血	1
49	IgA腎症	29	109	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
50	多発性嚢胞腎	35	110	IgG4関連疾患	24
51	黄色靱帯骨化症	7	111	黄斑ジストロフィー	1
52	後縦靱帯骨化症	36	112	アッシャー症候群	1
53	広範脊柱管狭窄症	2	113	好酸球性副鼻腔炎	19
54	特発性大腿骨頭壊死症	22	114	先天異常症候群	1
55	下垂体性ADH分泌異常症	12	115	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
56	下垂体性PRL分泌亢進症	3	116	特発性多中心性キャッスルマン病	8
57	クッシング病	2			
58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12			
59	下垂体前葉機能低下症	22			
60	先天性副腎皮質酵素欠損症	1			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	116
合計患者数(人)	2282

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・初診料(歯科)の注1に掲げる基準	・精神疾患診療体制加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・地域医療体制確保加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・救命救急入院料2
・特定機能病院入院基本料 一般 7対1入院基本料	・特定集中治療室管理料3
・特定機能病院入院基本料 精神 13対1入院基本料	・小児入院医療管理料2
・超急性期脳卒中加算	・
・救急医療管理加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・データ提出加算	・
・入退院支援加算2 告示注7 入院時支援加算	・
・認知症ケア加算2	・
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病合併症管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料イ	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料ロ	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん患者指導管理料ハ	・画像診断管理加算1
・がん患者指導管理料ニ	・CT撮影及びMRI撮影
・外来緩和ケア管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・外来化学療法加算1
・下肢創傷処置管理料	・無菌製剤処理料
・外来放射線照射診療料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・がん治療連携計画策定料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・がん患者リハビリテーション料
・薬剤管理指導料	・透析液水質確保加算
・医療機器安全管理料1	・センチネルリンパ節加算
・医療機器安全管理料2	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・持続血糖測定器加算(間歇注入ブランクオフと運動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・遺伝学的検査	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体、腫瘍細胞を検体)	・椎間板内酵素注入療法
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・国際標準検査管理加算	・網膜再建術
・遺伝カウンセリング加算	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・輸血管管理料Ⅱ
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・自己生体組織接着剤作成術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・放射線治療専任加算
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・外来放射線治療加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・高エネルギー放射線治療
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・1回線量増加加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・
・同種死体腎移植術	・
・生体腎移植術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
近赤外光による非接触性・非侵襲的粘膜投与型ワクチン増強技術の研究	君塚 善文	内科学	16,000,000	①補委 日本医療研究開発機構
全ゲノム解析と患者疫学情報による病原体伝播経路推定法の確立とその臨床応用	藤倉 雄二	病院 内科	900,000	①補委 文科省 科研費
エネルギー代謝における思春期特発性側弯症関連遺伝子LBX1の機能解析	北村 和也	整形外科学	1,200,000	①補委 文科省 科研費
皮膚微小環境と臓器免疫とのクロストークからみた痒疹の病態解析	佐藤 貴浩	皮膚科学	1,300,000	①補委 文科省 科研費
アトピー性皮膚炎の痒み過敏発生機序の解明:IL-31と好塩基球による末梢神経変容	端本 宇志	皮膚科学	1,100,000	①補委 文科省 科研費
経尿道的治療による難治性尿道狭窄症の治療をめざした革新的な尿道カテーテルの開発	堀口 明男	泌尿器科学講座	800,000	①補委 文部省 科研費
NSG-HiCEP法を用いた新規腎癌特異的バイオマーカーの同定と測定法の開発	伊藤 敬一	泌尿器科学講座	1,200,000	①補委 文部省 科研費
糖尿病網膜症におけるIL-17Aを介した炎症性VEGF産生のメカニズム解析	竹内 大	眼科学	1,169,454	①補委 文科省 科研費
難聴がうつ・認知機能に及ぼす影響と病態の解明—中枢制御による新規治療法の開発—	栗岡 隆臣	病院 耳鼻咽喉科	1,300,000	①補委 文科省 科研費
喉頭機能回復を目指した反回神経障害への新規治療戦略の開発	荒木 幸仁	耳鼻咽喉科学	1,200,000	①補委 文科省 科研費
耳鳴に対する分子遺伝学的解析を基盤とした新規薬物治療の開発	水足 邦雄	病院 耳鼻咽喉科	1,000,000	①補委 文科省 科研費
より効果的な腫瘍溶解センダイウイルス療法の開発と臨床応用へ向けた発展	塩谷 彰浩	病院 耳鼻咽喉科	1,300,000	①補委 文科省 科研費
超高齢社会における嚥下障害に対する知覚機能改善を目指した新規治療法の開発	宇野 光祐	病院 耳鼻咽喉科	2,500,000	①補委 文科省 科研費
経口的喉頭機能温存手術後の音声・嚥下機能障害予防の確立	谷合 信一	病院 耳鼻咽喉科	1,200,000	①補委 文科省 科研費
新しい光硬化性止血剤の開発と血管吻合部への適用	土屋 壮登	病院 形成外科	1,000,000	①補委 公益財団法人 SBC医学振興財団
高分解能24時間心電図による心臓突然死予測スコアリングモデルの樹立	橋本 賢一	総合臨床部	700,000	①補委 文科省 科研費
慢性疼痛発症におけるERK細胞内情報伝達機構の役割	高橋 哲也	手術部	4,290,000	①補委 文科省 科研費

計17件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Goto H, Shoda S, Nakashima et al.,	腎臓内科	Early biomarkers for kidney injury in heat-related illness patients: a prospective observational study at Japanese Self-Defense Force Fuji Hospital.	Nephrol Dial Transplant. 38:644-654, 2023.	Original Article
2	Goto H, Nakashima M, Nakashima H et al.	腎臓内科	Heat acclimation ameliorated heat stress-induced acute kidney injury and prevented changes in kidney macrophages and fibrosis.	Am J Physiol Renal Physiol. 32:F243-F254, 2022.	Original Article
3	Ito S, Nakashima M, Ishikiriyama T et al.	腎臓内科	Effects of L-Carnitine Treatment on Kidney Mitochondria and Macrophages in Mice with Diabetic Nephropathy.	Kidney Blood Press Res. 47:277-290. 2022.	Original Article
4	Yuki Ishinoda, Asuka Uto, Yoshifumi Yamada, et al.	腎臓内分泌内科	An elderly patient with 17 $\alpha$ -hydroxylase deficiency misdiagnosed as primary aldosteronism: a case report	BMC Endocrine Disorders. 2022 Dec (オンライン)	Case report
5	Higashiyama M Miura S Hokari R	消化器内科	Modulation by luminal factors on the functions and migration of intestinal innate immunity	Front Immunol 2023 Feb 13;14:1113467	Review
6	Okada Y Sugihara N Nishii S	消化器内科	Transgenerational impacts of oral probiotic administration in pregnant mice on offspring gut immune cells and colitis susceptibility	J Gastroenterol Hepatol 2023 Feb 38(2):311-320	Original Article
7	Inaba K Higashiyama M Watanabe C	消化器内科	Proinflammatory role of basophils in oxazolone-induced chronic intestinal inflammation	J Gastroenterol Hepatol 2022 Sep 37(9):1768-1775	Original Article
8	Tomioka A Narimatsu K Chiya N	消化器内科	Hepatic portal venous gas and bacteremia after colonic endoscopic submucosal dissection	DEN Open 2022 Apr 1;2(1):e107	Case report
9	Horiuchi T Narimatsu K Hokari R	消化器内科	Imported Ayurvedic Medicine and Lead Poisoning	Intern Med 2022 Nov 1;61(21):3313	Case report
10	Yohei Maki, Naoki Edo, Makoto Mizoguchi et al.	感染症・呼吸器内科	Impact of frequency and duration of freeze-dried inactivated tissue culture hepatitis A vaccine (Aimmugen®) vaccination on antibody titers; a japanese cross-sectional study	Vaccine•2023 Aug 22;S0264-410X(23)00962-3.	Original Article
11	Chie Watanabe, Ryohei Suematsu, Tomoya Sano et al.	感染症・呼吸器内科	Longitudinal changes in radiographic features of pulmonary Mycobacterium avium complex diseases	Heliyon•2023 Aug 6;9(8):e18967.	Original Article
12	Tomoya Sano, Hisashi Sasaki, Yohei Maki et al.	感染症・呼吸器内科	Ocular candidiasis in a tertiary hospital in Japan: A 10-year single-center retrospective study	J Infect Chemother•2023 Jun 29;S1341-321X(23)00161-7.	Original Article
13	Yohei Maki, Toshihiro Kushibiki, Tomoya Sano et al.	感染症・呼吸器内科	1270 nm near-infrared light as a novel vaccine adjuvant acts on mitochondrial photoreception in intradermal vaccines	Front Immunol•2022 Nov 10;13:1028733.	Original Article

14	Tomomi Tanigaki, Yoshifumi Kimizuka, Tohei Maki et al.	感染症・呼吸器内科	Development of intravascular large B-cell lymphoma during prophylactic antibiotic treatment for anti-interferon-gamma autoantibody syndrome: A case report	J Infect Chemother•2022 Nov;28(11):1562-1566.	Case report
15	Masashi Nishimura, Jun Miyata, Tomomi Tanigaki et al.	感染症・呼吸器内科	Successful Treatment of Granulomatous-lymphocytic Interstitial Lung Disease in a Patient with CTLA-4 Deficiency	Intern Med•2023 Mar 15;62(6):871-875.	Case report
16	Hisashi Sasaki, Jun Miyata, Rhohei Suematsu et al.	感染症・呼吸器内科	Radiological significance of mediastinal lymphadenopathy in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis	llergol Int•2022 Oct;71(4):536-538.	Original Article
17	Fujikura Y, Hamamoto T, Yuki A, et al	医療安全・感染対策部	A 12-year epidemiological study of Acinetobacter baumannii from blood culture isolates in a single tertiary-care hospital using polymerase chain reaction (PCR) based open reading frame typing	Antimicrob Steward Healthc Epidemiol. 2022 Aug 8;2:e136 (オンライン)	Original Article
18	Megumi Isa, Yu Hongo, Naohiro Sakamoto et al.	神経・抗加齢血管内科	Immune checkpoint inhibitor-related myositis and myocarditis with multiple myositis-specific/-associated antibodies.	Journal of the neurological sciences 2023 Jan; 444 120528	Case report
19	Yamadera Masato, Eiji Shinto, Ken Nagata, et al	外科	Proposal for a tumor budding predictive score derived from endoscopic biopsy samples in colorectal cancer	Int J Clin Oncol. 2022 Apr;27(4):756-764.	Original Article
20	Takahiro Einama, Yoji Yamagishi, Yasuhiro Takihata, et al.	外科	Clinical Impact of Dual Time Point 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography Fusion Imaging in Pancreatic Cancer	Cancers (Basel). 2022 Jul 28;14(15):3688.	Original Article
21	Keita Kouzu, Ines P Nearchou, Yoshiki Kajiwara, et al.	外科	Deep-learning-based classification of desmoplastic reaction on H&E predicts poor prognosis in oesophageal squamous cell carcinoma	Histopathology. 2022 Aug;81(2):255-263.	Original Article
22	Kazuki Kobayashi, Takahiro Einama, Yasuhiro Takihata, et al.	外科	Therapeutic efficacy of dose-reduced adjuvant chemotherapy with S-1 in patients with pancreatic cancer: a retrospective study	BMC Cancer. 2022 Sep 30;22(1):1028 (オンライン)	Original Article
23	Takafumi Suzuki, Yusuke Ishibashi, Hironori Tsujimoto, et al.	外科	Clinical significance of postoperative subcutaneous emphysema after video-assisted thoracoscopic surgery for esophageal cancer	Surg Endosc. 2023 Mar;37(3):2014-2020.	Original Article
24	Manabu Harada, Yuji Morimoto, Ohara Mutsuki, et al.	外科	Temperature-controlled laser thermal therapy system using a newly developed laparoscopic system equipped with an ultra-compact thermographic camera	Sci Rep. 2022 Oct 31;12(1):18287. (オンライン)	Original Article
25	Keita Kouzu, Hironori Tsujimoto, Naoyuki Uehata, et al.	外科	Modified Geriatric Nutrition Risk Index as a Prognostic Predictor for Unresectable/Recurrent Esophageal Cancer	Anticancer Res . 2022 Dec;42(12): 5999-6006.	Original Article
26	Hideki Ueno, Hironori Tsujimoto	外科	Postoperative complications and impaired long-term survival? Is this causation or association?	Ann Gastroenterol Surg. 2022 Dec 14;7(1):5-6.	Others
27	Hideki Ueno, Kazuo Hase, Akio Shiomi, et al.	外科	Optimal bowel resection margin in colon cancer surgery: prospective multicentre cohort study with lymph node and feeding artery mapping	Lancet Reg Health West Pac. 2023 Jan 18;33:100680. (オンライン)	Original Article



28	Hideki Ueno, Iris D. Nagtegaal, Philip Quirke, et al.	外科	Tumor deposits in colorectal cancer: Refining their definition in the TNM system	Ann Gastroenterol Surg . 2023 Jan 12;7(2):225-235.	Review
29	Takahiro Einama, Yasuhiro Takihata, Suefumi Aosasa, et al.	外科	Prognosis of Pancreatic Cancer Based on Resectability: A Single Center Experience	Cancers (Basel). 2023 Feb 9;15(4):1101. (オンライン)	Original Article
30	Kitamura K, Fukuda K, Takahashi Y, et al.	整形外科科学講座	Temporary Monosegmental Fixation Using Multiaxial Percutaneous Pedicle Screws for Surgical Management of Bony Flexion-Distraction Injuries of the Thoracolumbar Spine: A Technical Note	Spine Surg Relat Res. 2022 May 10;6(6):711-716	Others
31	Kitamura K, de Dios E, Bodon G, et al.	整形外科科学講座	Evaluating a Paradigm Shift from Anterior Decompression and Fusion to Muscle-Preserving Selective Laminectomy - a Single-Center Study of Degenerative Cervical Myelopathy.	J Neurosurg Spine. 2022 Jun 3:1-9	Original Article
32	Kitamura K, van Hooff M, Jacobs W, et al.	整形外科科学講座	Which frailty scales for patients with adult spinal deformity are feasible and adequate? A systematic review.	Spine J. 2022 Jul;22(7):1191-1204	Review
33	Kitamura K, Ishii K, Nagoshi N, et al.	整形外科科学講座	Spontaneous Osseous Fusion after Remodeling Therapy for Chronic Atlantoaxial Rotatory Fixation and Recovery Mechanism of Rotatory Range of Motion of the Cervical Spine.	J Clin Med. 2022 Mar 9;11(6):1504	Original Article
34	Kitamura K, Nagoshi N, Tsuji O, et al.	整形外科科学講座	Remnant Tumor Margin as Predictive Factor for Its Growth After Incomplete Resection of Cervical Dumbbell-Shaped Schwannomas.	Neurospine. 2022 Mar;19(1):32-40	Original Article
35	H. Rikitake, K. Horiuchi, et al.	整形外科科学講座	Risk assessment of femoral pathological fracture in prostate cancer patients by computed tomography analysis.	Journal of Bone and Mineral Metabolism 40(4) (2022)	Original Article
36	K. Horiuchi, R. Nemoto, T. Mizuno, et al.	整形外科科学講座	Prevalence of low bone mineral density and risk of fractures in osteosarcoma and Ewing's sarcoma survivors: A scoping review	Journal of Bone Oncology (2022) 100464.	Review
37	Kushima Y, Iwamoto T, Miyamoto T et al.	整形外科科学講座	TNF $\alpha$ -dependent mTOR activity is required for tenotomy-induced ectopic ossification in mice	Journal of Bone and Mineral Metabolism 01 June 2023.(オンライン)	Original Article
38	Hashimoto T, Okuno S, Okuzawa M, et al.	皮膚科	Dupilumab improves both histaminergic and touch-evoked itch sensitization (hyperknesis) in atopic dermatitis: A pilot study.	J Eur Acad Derm Venereol 2022年11月	Letter
39	Hashimoto T, Shinada Y, Okuzawa M, et al.	皮膚科	Linear morphea following Blaschko' line with epidermal downmodulation of friend leukemia integration 1 transcription factor.	Int J Dermatol 2022年12月	Letter
40	Hashimoto T, Okuzawa M, Yamamoto M, et al.	皮膚科	Increased touch-evoked itch (punctate hyperknesis) in postherpetic itch: implications of reduced intraepidermal nerve fibers, representing small fiber neuropathy.	J Dermatol 2023年3月	Letter

41	Hashimoto T, Yokozeki H, Karasuyama H, et al.	皮膚科	IL-31-generating network in atopic dermatitis comprising macrophages, basophils, thymic stromal lymphopoietin, and periostin.	J Allergy Clin Immunol 2023年3月	Original Article
42	Horiguchi A, Edo H, Shinchi M, et al.	泌尿器科学講座	Role of magnetic resonance imaging in the management of male pelvic fracture urethral injury.	Int J Urol. 2022 Sep;29(9):919-929.	Original Article
43	Horiguchi A, Asanuma H, Shinchi M, et al.	泌尿器科学講座	Efficacy of urethral reconstruction for urethral stricture associated with hypospadias surgery in adults.	Int J Urol. 2022 Dec;29(12):1470-1475	Original Article
44	Hirano Y, Horiguchi A, Ojima K, et al.	泌尿器科学講座	Myofibroblast-dominant proliferation associated with severe fibrosis in bulbar urethral strictures.	Int J Urol. 2023 Jan;30(1):107-112.	Original Article
45	Ojima K, Horiguchi A, Shinchi M, et al.	泌尿器科学講座	Transperineal bulbovesical anastomosis for extensive posterior urethral stenoses after treatment of prostatic disease.	Int J Urol. 2022 Dec;29(12):1511-1516.	Original Article
46	Yagi K, Horiguchi A, Shinchi M, et al.	泌尿器科学講座	Urethral reconstruction for iatrogenic urethral stricture after transurethral prostate surgery: An analysis of surgical and patient-reported outcomes.	Int J Urol. 2022 Sep;29(9):995-1001.	Original Article
47	Shinchi M, Horiguchi A, Takahashi E, et al.	泌尿器科学講座	A case of traumatic urethral stricture complicated by periurethral abscess while awaiting delayed urethroplasty.	IJU Case Rep. 2022 May 30;5(5):366-368	Case report
48	Someya H, Ito M, Nishio Y, et al.	眼科	Osteopontin-induced vascular hyperpermeability through tight junction disruption in diabetic retina.	Experimental Eye Research. 220:109094. 2022	Original Article
49	Nakai S, Takeuchi M, Usui Y,	眼科	Efficacy and Safety of Adalimumab for Exacerbation or Relapse of Ocular Inflammation in Patients with Vogt-Koyanagi-Harada Disease: A Multicenter Study.	Ocular Immunology and Inflammation. 24:1-9. 2022	Original Article
50	Sato T, Kitamura R, Takeuchi M:	眼科	Ischemic Retinopathy with Vitreous Hemorrhage Resembling Diabetic Retinopathy in a Patient with Mixed Cryoglobulinemia.	Ocular Immunology and Inflammation. 7:1-4. 2022	Original Article
51	Sato T, Nihei R, Sora D, et al.	眼科	Case report: Bilateral panuveitis resembling Vogt-Koyanagi-Harada disease after second dose of BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine.	Frontiers in Immunology. 13:967972. 2022	Case report
52	Yoneda Y, Usui Y, Tanaka R, et al.	眼科	Factors associated with low prevalence of Fuchs' uveitis syndrome in Japan.	Frontiers in Medicine (Lausanne). 9:999804. 2022	Original Article
53	Motegi S, Kanda T, Takeuchi M:	眼科	A Case of Atypical Unilateral Optic Neuritis Following BNT162b2 mRNA COVID-19 Vaccination.	Vaccines (Basel). 20;10(10). 2022	Original Article
54	Motegi S, Nagura K, Yoneda K, et al.	眼科	Clinical relevance of fibrin membranous structures in the intra-photoreceptor outer segment separation on spectral domain optical coherence tomography (SD-OCT) in initial-onset acute Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Acta Ophthalmologica. 2022 Oct 11. Epub 2022/10/12.	Original Article

55	Okazawa R, Iwai S, Nagura K, et al.	眼科	Epidemiology and characteristics of common forms of anterior uveitis at initial presentation in a tertiary facility in Japan.	Japanese Journal of Ophthalmology. 2022 Nov 8. Epub 2022/11/09.	Original Article
56	Takeuchi M, Nakai S, Usui Y, et al.	眼科	Adalimumab treatment for chronic recurrent Vogt-Koyanagi-Harada disease with sunset glow fundus: A multicenter study.	Saudi Journal of Ophthalmology. 36(4):380-386. 2022	Original Article
57	Takeuchi M, Usui Y, Namba K, et al.	眼科	Ten-year follow-up of infliximab treatment for uveitis in Behcet disease patients: A multicenter retrospective study.	Frontiers in Medicine (Lausanne). 10:1095423. 2023	Original Article
58	Sato T, Okazawa R, Nagura K, et al.	眼科	Association between Systemic Factors and Vitreous Fluid Cytokines in Proliferative Diabetic Retinopathy.	J Clin Med. 12(6):2354. 2023	Original Article
59	Shotaro Hirokawa, Koji Araki, Taku Yamashita, et al.	耳鼻咽喉科	The value of serum p53 antibody as a biomarker in oral and pharyngeal squamous cell carcinoma.	Acta Otolaryngol. 2023 Jan;143(1):85-90	Original Article
60	Saki Takihata, Takaomi Kurioka, Kunio Mizutari, Akihiro Shiotani	耳鼻咽喉科	Factors affecting the incidence of chorda tympani nerve transection in middle ear surgery.	Laryngoscope Investig Otolaryngol . 2022 Nov 11;7(6):2088-2094	Original Article
61	Shingo Yasutake, Daisuke Mizokami, Saki Takihata, Koji Araki, Akihiro Shiotani	耳鼻咽喉科	A Case of Pancreatic Metastasis From Small Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Oropharynx.	Cureus . 2022 Aug 11;14(8):e27872	Case report
62	Koji Araki, Kosuke Uno, Masayuki Tomifuji, et al.	耳鼻咽喉科	Transoral Videolaryngoscopic Vocal Fold Medialization Technique With Calcium Phosphate Cement.	Laryngoscope . 2022 May;132(5):1099-1103	Original Article
63	Takaomi Kurioka, Kunio Mizutari, Yasushi Satoh, Akihiro Shiotani	耳鼻咽喉科	Correlation of Blast-Induced Tympanic Membrane Perforation with Peripheral Cochlear Synaptopathy	J Neurotrauma . 2022 Jul;39(13-14):999-1009	Original Article
64	Matsuura H, Miyamoto M, Hada T, et al.	産科婦人科	The worsening impact of programmed cell death ligand 1 in ovarian clear cell carcinomas.	Arch Gynecol Obstet. 2022 Dec;306(6):2133-2142	Original Article
65	Matsuura H, Miyamoto M, Hada T, et al.	産科婦人科	Clinical significance of CD8-positive lymphocytes on tumor cell clusters of ascites cell block in ovarian high-grade serous carcinoma.	Cancer Med. 2022 May;11(10):2085-2095.	Original Article
66	Suminokura J, Miyamoto M, Yoshikawa T, et al.	産科婦人科	Potential efficacy of weekly low-dose administration of bevacizumab as a combination therapy for platinum-resistant ovarian carcinoma: a retrospective analysis.	BMC Cancer. 2022 Feb 16;22(1):176.	Original Article
67	Kono-Sato T, Miyai K, Yamagishi Y,	検査部	Intraepithelial lymphocytes are indicators of better prognosis in surgically resected endometrioid-type endometrial carcinomas at early and advanced stages.	BMC Cancer. 2022 Apr 2;22(1):361.	Original Article
68	Hada T, Miyamoto M, Ishibashi H, et al.	産科婦人科	Comparison of clinical behavior between mucinous ovarian carcinoma with infiltrative and expansile invasion and high-grade serous ovarian carcinoma: a retrospective analysis.	Diagn Pathol. 2022 Jan 20;17(1):12.	Original Article

69	Toshifumi Yamashiro, Toshihiro kushibiki, Yoshin e Mayumi他	形成外科	Novel cell culture system for monitoring cells during continuous and variable negative-pressure wound therapy	Skin Research and Technology 2023Jan;29(1)e13262	Original Article
70	Eiko Nakayama, Toshihiro Kushibiki, Yoshin e Mayumi他	形成外科	Optimal blue light irradiation conditions for the treatment of acne vulgaris in a mouse model	Journal of photochemistry and photobiology.B.Biology 2023Feb;239:112651	Original Article
71	Toshifumi Yamashiro, Toshihiro kushibiki, Yoshin e Mayumi他	形成外科	Negative-Pressure Wound Therapy: What We Know and What We Need to Know	Adv Exp Med Biol 2023Mar;1436:131-152	Review
72	Susumu Matsukuma, Ayano Matsunaga, Oh Takahashi, et al.	検査部、病理診断科	Lipomembranous fat necrosis: A distinctive and unique morphology (Review)	Experimental and Therapeutic Medicine, 2022 Nov; 24: 759.	Review
73	Kosuke Miyai, Fumihisa Kumazawa, Kimiya Sato	検査部、病理診断科	Chronic lymphocytic leukemia and concurrent seminoma in the same testis	Journal of Pathology and Translational Medicine Vols. 49 to 57; 2015 to 2023	Original Article
74	Amako M, Arai T, Iba K, et al.	リハビリテーション部	Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of lateral epicondylitis of the humerus - Secondary publication.	J Orthop Sci. 2022 May;27(3):514-532.	Review
75	Bonpei Takase, Tetsuya Hisada, Nobuyuki Masaki. et al.	集中治療部	Frequency of vaccine-associated syncope after COVID-19 vaccination in adolescents	J Arrhythm. 2022 Apr 21;38(3):448-450. doi:10.1002/joa3.12721. eCollection 2022 Jun.	Original Article
76	Yasuhiro Hitomi, Nobuyuki Masaki, Yuki Ishinoda. et al.	循環器内科	Effectiveness of the d-ROMs oxidative stress test to predict long-term cardiovascular mortality	Int J Cardiol. 2022 May 1;354:43-47. doi: 10.1016/j.ijcard.2022.03.001. Epub 2022 Mar 4.	Original Article
77	Takayuki Namba, Nobuyuki Masaki, Yasuhiro Hitomi, et al.	循環器内科	Association of serum nitric oxide metabolite level with mortality in patients undergoing coronary angiography	J Cardiol. 2022 Dec;80(6):578-584. doi: 10.1016/j.jjcc.2022.07.020. Epub 2022 Aug 17.	Original Article
78	Yuki Ishinoda, Nobuyuki Masaki, Yasuhiro Hitomi, et al.	腎臓内分泌内科	A Low Arginine/Ornithine Ratio is Associated with Long-Term Cardiovascular Mortality	J Atheroscler Thromb. 2023 Feb 11. doi: 10.5551/jat.63779.	Original Article
79	Nobuyuki Masaki, Takeshi Adachi, Hirofumi Tomiyama. et al.	集中治療部	Reduced reactive hyperemia of the brachial artery in diabetic patients assessed by repeated measurements: The FMD-J B study	Physiol Rep. 2023 Aug;11(16):e15786. doi: 10.14814/phy2.15786.	Original Article
80	Yasumasa Sekine, Daizoh Saitoh, Takero Terayama, et al	救急部	The survival rate of patients with burns induced by explosions was significantly higher than that of common burn cases: A nationwide observational study using the Japan Trauma Data Bank.	Burns . 2023 Aug;49(5):1096-1102	Original Article
81	Tetsuro Kiyozumi, Daizoh Saitoh, Takayuki Ogura, et al	救急部	Impact of COVID-19 pandemic on the care of severe burns in Japan: Repeated survey of specialized burn care facilities	Burns . 2023 Jun;49(4):934-940	Original Article
82	Tetsuro Kiyozumi, Norio Ishigami, Daisuke Tatsushima, et al	救急部	Instructor Development Workshops for Advanced Life Support Training Courses Held in a Fully Virtual Space: Observational Study	JMIR Serious Games . 2022 Jun 29;10(2):e38952	Original Article

83	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Sano Azusa, et al.	総合臨床部	Serum diiodotyrosine - a biomarker to differentiate destructive thyroiditis from Graves' disease	European Journal of Endocrinology 2022 Feb;186(2):245-253	Original Article
----	--	-------	---	---	------------------

計83件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Matsubishi, Y., Horiuchi, K. et al.	整形外科学講座	Abrogation of LBX1 in skeletal muscle results in hypoplastic limbs and progressive kyphosis in mice	Journal of Orthopaedic Research 41(4) (2022) 884-890.	Original Article
2	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Sano Azusa,et al.	総合臨床部	Thymic hyperplasia associated with Graves' disease	Journal of Hospital General Medicine 2022 Feb;4(1)pp.32-33	Case report
3	Horiuchi Yugo, Hashimoto Kenichi, Sano Azusa, et al.	総合臨床部	Fulminant elderly adult-onset Still disease effectively treated with tocilizumab and methotrexate: A case report.	Medicine 2022 Apr; 101(28): pp.e29354	Case report
4	Kobayashi Takahiro, Ono Yosuke, Fujita Naoya, et al.	総合臨床部	Herpes Zoster with Contact Dermatitis Developing Under a Patch	Internal Medicine Advance online publication: May 21, 2022: (オンライン)	Case report
5	Sano Azusa, Ono Yosuke, Fujita Naoya, et al.	総合臨床部	Spotty skin pigmentation in Carney complex	Cleveland Clinic Journal of Medicine 2022 Jun;89(6): pp.307-308	Case report
6	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Obuchi Yasuhiro, et al.	総合臨床部	Bilateral inguinal bladder hernias	Clinical Case Reports 2022 Jul;10(7): pp.e06075	Case report
7	Akinori Sekizawa, Hashimoto Kenichi, Kozono Sawako, et al.	総合臨床部	Rapid progression of marginal zone B-cell lymphoma after COVID-19 vaccination (BNT162b2): A case report	Frontiers in Medicine:2022 Jul; 9 (オンライン)	Case report
8	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Sano Azusa, et al.	総合臨床部	Mantle Cell Lymphoma with Multiple Lymphomatous Polyposis	Internal Medicine 2022 Sep; 61: pp.591-592	Case report
9	Fujita Naoya, Ono Yosuke, Kobayashi Takahiro, et al.	総合臨床部	Iodine-Containing Ointment-Induced Hypothyroidism in a Patient with Anorexia Nervosa and Sacral Decubitus Ulcer: A Case Report with Literature Review	Endocrine Journal, in press 2022 Dec; 69(12): pp.1423-1429	Case report

計9件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 申請手続、委員会審査及び分科会審査手続、審査結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年2回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 利益相反の審議をするための委員会（委員の任期、決議方法）、申請手続、判定結果の通知要領及び守秘義務等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年0回 事前確認によって明らかに利益相反が認められないと判定されたため

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回以上
・ 研修の主な内容 日本学術振興会「研究倫理eラーニング」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	75人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
足立 健	内科	教授	34年	
穂刈 量太	内科	教授	32年	
川名 明彦	内科	教授	39年	
木村 文彦	内科	教授	39年	
池脇 克則	内科	教授	39年	
上野 秀樹	外科	教授	33年	
田口 眞一	外科	教授	39年	
吉野 相英	精神科	教授	39年	
今井 耕輔	小児科	教授	26年	
千葉 一裕	整形外科	教授	40年	
和田 孝次郎	脳神経外科	教授	36年	
佐藤 貴浩	皮膚科	教授	38年	
伊藤 敬一	泌尿器科	教授	31年	
高野 政志	産科婦人科	教授	31年	
竹内 大	眼科	教授	34年	
荒木 幸仁	耳鼻咽喉科	教授	26年	
新本 弘	放射線科	教授	39年	
池田 健彦	麻酔科	教授	34年	
清住 哲郎	救急部	教授	31年	
東 隆一	形成外科	教授	27年	
松熊 晋	検査部	教授	37年	
田中 祐司	総合臨床部	教授	39年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 塩谷 彰浩
管理担当者氏名	病院運営課長 東山 玲児、材料部長 伊藤 敬一、医療情報部長 岸 庸二、薬剤部長事務代理 井上 博章、医療安全推進室長 高畑 りさ、感染対策室長 藤倉 雄二

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院運営課 医療情報部	カルテ等の病歴資料は、医療情報部で一括管理している。外来カルテは診療科毎、入院カルテは入院期間毎に作成され、電算機に登録されており、保存期間は10年である。医療記録利用規則により院外への貸し出しは禁止している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院運営課	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		高度の医療の提供の実績		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		
		高度の医療の研修の実績		
		閲覧実績		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	病院運営課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院運営課、薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況				

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医療機器安全管理責任者の配置状況	材料部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況		
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院運営課、医療安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	病院運営課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画    ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 塩谷 彰浩
閲覧担当者氏名	各診療科部長、病院企画調整官、病院運営課長、 材料部長、薬剤部長事務代理
閲覧の求めに応じる場所	・病院第3会議室
閲覧の手続の概要 閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>(1) 安全管理システムの構築</li> <li>(2) 医療従事者の研鑽</li> <li>(3) インシデント・アクシデントレポートの推進</li> <li>(4) 安全管理組織の充実</li> <li>(5) 職員教育・研修の充実</li> <li>(6) 医療事故発生時の対応方針</li> <li>(7) 患者相談窓口の設置</li> <li>(8) 高難度新規医療技術等に関する事項</li> <li>(9) 未承認新規医薬品等に関する事項</li> <li>(10) 医療安全管理マニュアルの改訂</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 (有・無)</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>(1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関する事</li> <li>(2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関する事</li> <li>(3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関する事</li> <li>(4) 医療事故発生時の対応要領に関する事</li> <li>(5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関する事</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年29回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容(すべて)：</li> <li>(1) 新着任者、中途採用者に対する当院の医療安全管理体制についてのオリエンテーション(全職種) 29回/年</li> <li>(2) 新入職者(看護師)に対するオリエンテーション 6回/年</li> <li>(3) 産児休業後復帰者に対するオリエンテーション 7回/年</li> <li>(4) 当院におけるリスクマネジメントについて(初任実務研修医、専門研修医、研究科)計4回/年</li> <li>(5) 看護管理者のための安全管理教育 1回/年</li> <li>(6) 看護部研修生に対するオリエンテーション 5回/年</li> <li>(7) 看護学生に対する医療安全管理体制についての卒前教育 1回/年</li> <li>(8) 全職員対象医療安全・感染対策講習 2回/年</li> <li>(9) コメディカル対象のBLS講習会 1回/年</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> <li>(1) 院内全死亡例の報告および死亡例カンファレンス実施の義務化</li> <li>(2) オカレンス(合併症等)事例に係る報告の義務化</li> <li>(3) 院内における暴言・暴力に係る報告制度</li> <li>(4) 安全対策プロジェクトチームにおけるインシデント事例の再発防止策の検討及び検証のための院内ラウンドの実施</li> <li>(5) 上記1)～4)の安全管理委員会、部長会での情報の共有と周知の実施</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： 院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、サーベイランスによる院内の感染症発生状況の把握と報告、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： (1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年30回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： (1) 新採用者、中途採用者に対するオリエンテーション (2) 産前産後及び育児休業後復帰者に対するオリエンテーション (3) 看護部研修生に対するオリエンテーション (4) 初任実務研修医、専門研修医、研究科医師に対するオリエンテーション (5) 新任看護管理者に対する感染管理研修 (6) 抗菌薬適正使用への取り組み (7) 全職員対象医療安全・感染対策講習会 (8) 看護部クリニカルラダーⅢ「感染管理」研修 (9) 部署別標準予防策・経路別予防策研修 (10) 第一種感染症病対応要員（看護師・放射線技師・検査技師）対象个人防护具着脱研修 (11) 清掃委託業者に対する感染対策研修</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌や新型コロナウイルス等に関する職員教育の実施 (3) ATP拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施 (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制を導入 (7) 携帯用手指衛生剤の導入 (8) 抗菌薬使用状況の把握、抗菌薬適正使用の推進 (9) 血液培養サーベイランスの実施 (10) 手術部位感染（SSI）サーベイランスの実施</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護職員初任者研修：薬剤の取り扱い（2回）</li> <li>(2) 研修医オリエンテーション（2回）：オーダーリングシステム教育～医療事故を起こさないために～</li> <li>(3) 精神科病棟における薬剤師の役割～精神科用剤の処方について～</li> <li>(4) 専門研修医師オリエンテーション：オーダーリングシステム教育～医療事故を起こさないために～</li> <li>(5) 医薬品管理の留意点　－抗菌薬を中心として－</li> <li>(6) 麻薬の管理（4回）</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成　（有・無）</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医薬品の選定</li> <li>(2) 医薬品管理</li> <li>(3) 調剤</li> <li>(4) 薬剤管理指導業務</li> <li>(5) 医薬品情報</li> <li>(6) 地域薬剤師会との連携</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（有・無）</li> </ul> <p>【収集方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集</li> <li>② 医薬品安全対策情報（DSU）からの情報収集</li> <li>③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集　等</li> </ol> <p>【周知方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース</li> <li>② 院内会議報告</li> </ol> <p>【その他の改善のための方策の主な内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オーダーリングおよび薬剤部門システムを利用した薬用量チェックの設定</li> <li>② 薬剤部薬品棚の表示および調剤手順の見直し</li> <li>③ 採用医薬品の見直し</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>未承認新規医薬品等評価委員会で50件承認（適応外47件、禁忌使用2件、院内製剤1件）</li> <li>例）皮膚筋炎性間質性肺炎に対するゼルヤンツの適応外使用</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年84回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新着任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理</li> <li>(2) 使用者に対する機器操作と安全管理</li> <li>(3) 機器導入時の操作法と安全管理</li> <li>(4) 使用現場巡回安全管理指導</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部で分担又は部外委託で実施</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：               <ul style="list-style-type: none"> <li>使用事例なし</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。</li> <li>また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理部門の管理を行うとともに、1回/週管理者に対して医療安全管理部門とともに安全に関する報告を実施している。また、安全管理委員会委員長として、委員会を開催し、各責任者からの報告を受け指導を行うとともに病院部長会において、委員会の報告を実施している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は医薬品情報室を活用し、製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報(DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構等のHPから情報の収集と整理の報告を受ける。またDIニュース等を毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示し、院内周知を図る。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。また、医療情報提供会社と契約し、毎日医薬品関連ニュースが配布、配信され、それをもとに情報確認して医療従事者へ情報提供する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は未承認等医薬品の取り扱いに関して事務局を治験管理室に設置して薬剤部各部署および診療科からの適応外・禁忌に使用する情報を収集し報告を受ける。未承認等医薬品の使用について審議が必要となった場合は、未承認医薬品等評価委員会委員長に報告し、委員会を開催し使用の適否を審議する。また承認された事例は薬事委員会、安全管理委員会へ報告、医療端末掲示板に掲示し院内周知を図るとともに承認後の臨床使用成績についても情報を収集する。また必要に応じ手順の見直しを行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>IC・診療録管理責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、ICについて規定された事項につき監査を実施、適宜不足事項に関する指導を実施している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>IC・診療録記録責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、各々の規定された項目につき監査を実施、監査状況に応じて指導を行っている。</p> <p>また、初任実務研修医に対しては、新着任者教育の際に診療録記載マニュアルを用いて教育を実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（３）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（２）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち臨床工学技士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（１）名</p> <p>うち事務職員：専従（ ）名、専任（１）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>（１）事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>（２）患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>（３）事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>（４）医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>（５）医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認</p> <p>（６）医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。</p> <p>（７）医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。</p> <p>（８）医療安全文化の醸成に関すること。</p> <p>（９）前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（６件）、及び許可件数（６件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>（１）高難度新規医療技術の提供の申し出の受領</p>	

(2) 高難度新規医療技術評価委員会の開催

(3) 高難度新規医療技術承認後の実施事例のモニタリング

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 50 件 ) 、及び許可件数 ( 28 件 )
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 活動の主な内容 :
  - (1) 未承認新規医薬品等の提供の申し出の受領
  - (2) 未承認新規医薬品等評価委員会の開催
  - (3) 未承認新規医薬品等評価委員会における審議結果報告、記録の作成・保管
  - (4) 未承認新規医薬品等評価委員会の実施事例のモニタリング
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 354 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 12 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
安全管理委員会において全死亡症例の報告を実施。全死亡例における死亡例カンファレンス実施状況の各診療科別の報告、病理解剖実施率、A i 実施率について報告。全死亡症例の概要についても報告を行い、安全推進室にて検討を実施した事例について報告を行い、必要に応じて審議を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名 : 佐賀大学医学部付属病院) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名 : 神戸大学医学部付属病院) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況  
コロナ禍により、調査票による確認のみを実施

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

事務部病院運営課に「医事相談窓口」を設置

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全・感染対策講習会を2回／年実施。

埼玉県における感染症法第44条の3第2項に基づく協力要請に伴い、対面による講習とWEB講習により全職員の受講を確認。

【令和4年度実績】

第1回 令和4年9月29日 第2回 令和5年1月25日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構開催 2021年度特定機能病院管理者研修受講

- ・管理者 (2023/2/3 東京)
- ・医療安全管理責任者 (2023/2/3 東京)
- ・医薬品安全管理責任者 (2023/2/3 東京)
- ・医療機器安全管理責任者 (2023/2/3 東京)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和5年5月 病院機能評価受審

- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医師免許を有している者</li> <li>2 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、人格が高潔で学識が優れ必要な医療安全管理業務に従事した経験、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を有すること</li> <li>3 病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者 防衛医科大学学校病院又は同病院に準じる規模の病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有すること。</li> <li>4 防衛医科大学学校の任務等を果たすために必要な資質・能力 防衛医科大学学校の任務や役割を理解し、職務遂行にあつては、同校の方針にしたがい、目標を達成しようとする強い意思とこれらを継続的かつ確実に推進する強力なリーダーシップを有すること</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 防衛医科大学学校病院ホームページ</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院の管理運営に関すること。</p> <p>(2) 病院の医療安全管理及び訴訟に関すること。</p> <p>(3) 臨床教育に関すること。</p> <p>(4) 病院の手術及び医療材料に関すること。</p> <p>(5) 病院における諸施策の評価に関すること。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 議事録の回覧</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・公表の方法 防衛医科大学校病院運営会に関する規則(平成17年防医大病院規則第2号)として規定し、防衛医科大学校法規類集に掲載するとともにインターネットでも閲覧可能としている</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( (有)・無 )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
塩谷 彰浩	○	医師	病院長
木村 文彦		医師	副院長
辻本 広紀		医師	副院長
小笠原 誠		事務	病院長補佐
井上 博章		薬剤師	病院長補佐
平 尚美		看護師	病院長補佐
穂刈 量太		医師	病院長補佐
伊藤 敬一		医師	病院長補佐
清住 哲郎		医師	病院長補佐
池田 健彦		医師	病院長補佐



## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）として公表しており、インターネットで閲覧可能である。
- ・ 規程の主な内容  
防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）第13条第5項において、「病院長は、学校長の命を受け、院務を掌理する。」と規定されており、病院に係る業務のすべてを統括し責任を有している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
防衛医科大学校病院においては、管理運営担当と医療安全担当の2名の副院長及び7名の院長補佐を任命し管理者たる病院長をサポートするとともに、病院事務部に病院企画調整官を設け、病院に係る各種企画業務等の補佐を実施している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
防衛医科大学校病院の副院長、院長補佐、各部長等に対し、可能な範囲で、人事院や防衛省本省で実施する管理者研修等を受講させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記の項目について監査を実施、状況に応じて実地での確認を行う</p> <p>(1) 医療安全部門の業務に関すること。</p> <p>(2) 全死亡例報告に関すること。</p> <p>(3) インシデント・アクシデントの発生の事実、発生前状況に関すること。</p> <p>(4) 医療安全管理に関すること。</p> <p>(5) インフォームド・コンセントの適切な実施状況に関すること。</p> <p>(6) 医療機器安全管理に関すること。</p> <p>(7) 高難度新規医療技術に関すること。</p> <p>(8) 診療録記載内容に関すること。</p> <p>(9) その他医療安全に関すること。</p> <p>監査委員は、上記の項目を口頭で説明を受け実地（医療等の現場）での確認を行う。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>防衛医科大学校病院ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
斉藤 祐次	所沢市薬剤師会 顧問	○	薬剤師としての豊富な経験から、医療に関する意見を述べてもらうため	有 (無)	1
大館 千歳	国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護部長		看護師としての豊富な経験から、医療に関する意見を述べてもらうため	有 (無)	1
島戸 圭輔	二番町法律事務所（弁護士）		弁護士としての経験から法律に基づいた意見を述べてもらうため	有 (無)	1
奈良 信和	自治体職員		医療を受ける者としての意見を	有 (無)	2

			述べてもらうため		
根本 孝一	永仁会入間ハート病院		医師としての豊富な経験から、医療に関する意見を述べてもらうため	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること。」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられている。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

防衛医科大学校病院ホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられていることから、別途会議体を設けることは要しない。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年〇回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年〇回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 法令として整備されており、インターネットでも閲覧可能。</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年〇件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法 病院安全管理委員会より、リスクマネージャー全体会議及び病院部長会を通じて周知</li></ul>